

知的障がい学級（わかば） 算数科 学習指導案

児童 6年女1名 4年男1名
 3年男2名 1年男2名 計6名
 指導者 細川 格 (T1)
 小原有希子 (T2)

- 1 大単元名 おやつのは数は？
 小単元名 6. 4. 3年 わり算を考えよう
 3. 1年 ふえたり へったり
 1年 かずのなまえ

2 児童について

わかば学級には、1年生から6年生までの6名が在籍している。

どの子も明るく素直である。以前は児童間のトラブルが多かったが、徐々に相手のことを思いやるようになり、困っている子を手伝ったり協力し合ったりする場面が多くなってきた。

昨年度は6年生が2名在籍し、算数科でも一斉学習を行うこともあったが、今年度は1年生が2名入学し、個人差が広がったため、3～4つのグループに分かれて学習を進めている。どの児童も意欲的に学習に取り組んでいる。

児童の学習態度や数と計算に関する実態は以下のとおりである。

A	<ul style="list-style-type: none"> ・話を最後まで聞くことが難しい。 ・3位数のたし算，ひき算ができる。 ・かけ算九九ができる。 ・九九を一回適用してできるわり算ができる。 ・今年度は3年生の内容の学習を進めている。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して学習に取り組むことができる。 ・3位数のたし算，ひき算ができる。 ・かけ算九九ができる。 ・九九を一回適用してできるわり算ができる。 ・今年度は3年生の内容の学習を進めている。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・集中できるときとできないときの差が激しい。 ・昨年は2年生の教科書を終えた。 ・今年度は3年生の内容の学習を進めている。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・集中できるときとできないときの差が激しい。 ・和が10以内のたし算は暗算でできるが，完全ではない。 ・繰り上がりのある1位数+1位数や10以下のひき算は，100玉そろばんなどを使用している。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して学習に取り組むことができる。 ・和が10以内のたし算が暗算でできる。 ・5までのひき算は暗算でできるが，それより多くなると指を使って計算する。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・集中できる時間が短い。 ・10まで唱えることができる。 ・10までの1対1対応が正確にできるようになってきた。

3 単元について

(1) 設定理由について

特別支援学校小学部の学習指導要領による算数科の目標は、「具体的な操作などの活動を通して、数量や図形などに関する初歩的なことを理解し、それらを扱う能力と態度を育てる。」である。つまり、手や身体を使った体験的な活動を通して、日常生活に必要な数量や図形に関する初歩的なことを理解し、それらを個々の生活場面で取り扱う能力と態度を育てることが特徴である。これは、本学級の児童についても同じであると考えられる。

本単元は、研究仮説（1）「生活単元学習とのかかわりを大切に、児童にとって日常生活に結びつくような単元の設定の工夫」から、生活単元学習「おやつをつくろう」の学習と結びつけて行う。おやつを作った経験をもとに単元を構成し、児童の実態に応じて、おやつををみんなで分けたり、数えたりする活動をすれば更に意欲的に取り組むと考えた。

(2) 指導について

児童を3グループに分け、A・B・CとFをT1が、D・EをT2が指導する。

児童の実態から、個人差があり学習内容が異なるため、個別やグループ学習だけでは学級としての集団意識が希薄になってしまう。そこで、学習の始めと終わりは一斉学習とし、他の子の学習を紹介することによって、集団・仲間を意識させたい。また、仮説（3）に基づき、グループやペア活動を取り入れ、一人で学習するのではなく、相手を意識させて学習を進めていきたい。

操作活動や繰り返しの学習を多く取り入れ、それぞれの内容が定着するように学習を進めていきたい。

4 単元の目標

上記の様子から本単元の目標を、以下のように設定した。

A	・乗法九九を一回適用してできる除法で、あまりのある場合の計算方法を理解する。
B	・乗法九九を一回適用してできる除法で、あまりのある場合の計算方法を理解する。
C	・乗法九九を一回適用してできる除法で、あまりのある場合の計算方法を理解する。
D	・三口の数の加減計算の場面を一つの式に表し、その計算ができる。
E	・三口の数の加減計算の場面を一つの式に表し、その計算ができる。
F	・10までの数について正しく数えることができ、数字を読んだり書いたりすることができる。

5 単元指導計画（全10時間）

	A・B・C	F	D・E
1	・オリエンテーション		
2	・乗法九九を1回適用してできる除法で、あまりのある場合の計算方法を理解する。 (本時 3 / 10)	・10までの数詞を唱える。 ・1～10の数字を読んだり書いたりする。 ・1～10の数について、具体物、半具体物、数図、数字、数詞を対応させる。 (本時 3 / 10)	・3口の数の加法の式の意味とその計算の仕方を理解し、その計算ができる。 (本時 3 / 10)
3			
4			・3口の数の減法の式の意味とその計算の仕方を理解し、その計算ができる。
5			
6	・あまりと除数の関係を理解する。		
7			
8	・あまりのある場合の除法計算について、答えの確かめ方を理解する。		・3口の数の加減混合の式の意味とその計算の仕方を理解し、その計算ができる。
9			
10			

6 本時の指導

(1) 本時のねらい

	A・B・C	F	D	E
表現・処理	・おはじきを操作して、わり算の答えとあまりを求めることができる。	・8, 9の数について、数字を書いたりブロックや数字カードなどを対応させることができる。	・100玉そろばんを操作して、3口の数の加法の答えを求めることができる。	・ブロックを操作して、3口の数の加法の答えを求めることができる。

(2) 研究との関わり

仮説(1)「生活単元学習との関わりを大切にした単元設定の工夫」
手だて： 意欲的に学習に取り組ませるために、生活単元学習「おやつをつくらう」をもとに単元を構成し、実際に作ったおやつや学級の友だちを問題に取り入れる。

仮説(3)「学習形態、学習過程などの多様な学習活動の工夫」
手だて： 3人のグループには学習リーダーによるグループ学習を、2人のグループにはペア学習を取り入れ、相手意識を持たせて意欲的に学習に取り組ませる。

(3) 展開

段階	学習活動		指導上の留意点			
はじめ 全体 7	1 学習の準備をする。		・準備ができているかグループごとに確認する。			
	2 あいさつをする。					
	3 前時の学習を想起する。		・前時の学習内容を思い出させるとともに、個々の頑張ったことも思い出させ、本時への意欲につなげていきたい。			
	4 本時の学習を確認する。		・今日も学習したことを本時の最後にみんなに紹介することを知らせ意欲付けをはかる。			
	A・B・C (細川)		F (細川)		D・E (小原)	
	学習活動	指導上の留意点	学習活動	指導上の留意点	学習活動	指導上の留意点
なか 個別・ペア・グループ 25	5 わりざん ①問題を読む ②問題をノートに書く。 ③操作をする。 ④何算になるか考える。 ⑤立式する。 ⑥操作をする。	・グループ学習の進め方を確認する。 ・Aには、前時のリーダーとしてのがんばりを認め本時にも意欲的に取り組ませたい ・一人ずつ読ませる。 ・Cには、早く書くように声をかける。 ・早く書き終わった子にはもう1度読ませ何算になるか考えさせる。 ・問題文を確かめながら操作をさせる。 ・どうしてわり算になるのか理由を一人ずつ言わせる。 ・式をもとに操作させる。 ・等分除、包含除のどちらの動かし方になるのかを確認する。	5 10までの数 ①数字カードと数 図カードのマッチングをする。 ②数字を書く。 ③おやつを数を数える。 ④数詞を言う。 ⑤おやつと同じ数の数字カードを選ぶ。 ⑥おやつと同じ数のブロックを出す。 ⑦おやつと同じ数	・自習課題とする。 ・書くことができる数字をていねいに書かせる。 ・指と声に対応するようにゆっくり数えさせる。 ・数詞を言わせることで、学習する数を意識させる。 ・数が大きくなると間違えることが多くなるので、1個ずつ数を唱えながら並べさせる。 ・直感的に選んで間違	5 ふえたりへったり ①問題を見てどんな話か考える。 ②操作をする。 ③立式する。 ④操作をする。 ⑤答えを書く。 ⑥次の問題に取り組む。	・おやつがふえていくことを捉えさせる。 ・問題の話の順序に沿って操作をさせる。 ・Dには100玉そろばんを、Eにはブロックを操作させる。 ・友だちの操作をよく見るようにさせる。 ・2回ふえたので3口のたし算であることを確認する。 ・式の順番に沿って操作をさせる。 ・前から順番に計算すればいいことを確認する。

	<p>⑦答えを書く。</p> <p>⑧発表する。</p> <p>⑨次の問題に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの操作をよく見るようにさせる。 聞かれていることを確認し、単位に間違いはないか確認させる。 式と答えの発表ではなく問題文に戻ってことばで発表させるようにし、実生活に結びつけたい。 Bには大きな声で発表するように声をかける。 	<p>の数図カードを選ぶ。</p> <p>⑧おやつと同じ数のシールをノートに貼る。</p> <p>⑨おやつと同じ数の数字を書く練習をする。</p> <p>⑩次の数字を学習する。</p>	<p>う場合があるので、教えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> まずはみ出さないで貼るように声をかける。 なぞりから入り、様子を見て補助線を減らす。 頑張ってきたことを認め、次の数字の学習に意欲的に取り組ませたい。 	
おわり 全体 13	学習活動	指導上の留意点			
	<p>6 学習したことをみんなに紹介する。</p> <p>7 次の学習を確認する。</p> <p>8 あいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことや頑張ったことを一人ずつ発表させる。 個々のがんばりを認め、次時への意欲付けとする。 			

(4) 評価

	A・B・C		
表現・処理	おはじきを操作して、わり算の答えとあまりを求めることができたか。		
	F	D	E
表現・処理	8, 9の数の数について、数字を書いたりブロックや数字カードなどを対応させることができたか。	100玉そろばんを操作して、3口の数の数の加法の答えを求めることができたか。	ブロックを操作して3口の数の数の加法の答えを求めることができたか。

(5) 板書計画

おやつのかずは？		
A・B・C 発表コーナー	F 発表コーナー	D・E 発表コーナー